

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	017200036		
法人名	株式会社道央ケアセンター		
事業所名	グループホーム つつじⅡ		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694-4 (電話) 0134-54-0200		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価確定日	平成22年4月1日

【情報提供票より】 (平成22年1月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年 5月 2日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤	16人, 非常勤 3人, 常勤換算 17.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	5階建ての	3～5 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	光熱費他20,000円 暖房費(10～5月)8,000円	
敷金	有 (円) ・ <del>無</del>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ・ <del>無</del>	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 (1月28日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	12 名	要介護2	10 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東小樽病院、中垣病院、朝里整形外科・内科、朝里病院他
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、利用者が外気浴を満喫できる広い中庭があり、遊歩道や山菜が取れる雑木林に隣接して自然環境に恵まれています。建物内の共有空間は、大きくゆとりのある食堂と居間など暮らしやすさに配慮され、3ユニットの階下にはゲストルーム、スタッフルーム、ミーティングルームなども有り、管理面でも便利な施設です。ホームでは職員同士の人間関係も極めて良好なため、職員にとって働きやすい職場であり、これがケアサービスにも反映され、利用者は家族的で親しみのある雰囲気の中で安心してゆったりと暮らしています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題であった地域密着型理念、ホーム便りの発行回数、同業者との交流など改善されており、今後も新人職員の研修受講、利用者の外出、運営推進会議への参加など継続して取り組むよう努めています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価表は、全職員に配布され、各職員が内容を検討した上で会議で話し合い、管理者がまとめています。自己評価の結果は、内容に応じて改善に取り組むようにしています。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヵ月毎に開催し、ホーム運営状況報告と参加者からの活発な質疑応答がされています。会議の構成員は民生委員や包括支援センターなど多彩なメンバーですが、これら外部メンバーの出席者が少ないことの課題があります。会議からの意見等はホーム内部の会議等で検討しながら、利用者のサービスへ反映させるように努めています。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの苦情受付けと処理体制は整備されています。家族からの苦情や要望等は苦情報告書や連絡ノートで全職員に周知徹底するようにしています。また、これら苦情等はフロア会議や管理者による全体会議で検討しながら、改善に向けて取り組むようにしています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営法人主催の夏祭りが毎年開催され、利用者や家族ばかりでなく、周辺住民の方々や子どもたちが参加して地域の楽しみごとになっています。利用者や職員は小学校の運動会や学習発表会、雪明かりの路など、地域のイベントへ参加したり、地域の方々との交流が進められています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム運営方針に地域との結びつきを重視した文言が入っています。さらに、職員が話し合って作成したホーム理念にも地域の一員として交流を図り、行事などを通じてホームで触れ合うなど、地域とのふれあいを深める内容となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内の随所に掲示していますが、内部研修やユニット単位のフロア会議においても、理念に基づくケアのあり方を確認しながら、利用者へのサービスに反映させています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営法人主催の夏祭りには、利用者や家族、周辺住民の方々や子供たちが参加して楽しんでいます。また、利用者や職員は小学校の運動会や学習会、雪明りの路など、各種イベントへ参加しており、地域の方々との交流が盛んです。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は全職員に渡され、各自が内容を検討しながら会議で話し合い、管理者がこれらをまとめて作成しています。自己評価からの課題は、内容に応じて改善に取り組むように努めています。		

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月毎に開催し、ホーム運営状況報告と質疑応答の他に利用者へのサービスやホームの行事等への協力要請をしています。会議結果は内部で報告し、利用者へのサービスに反映させるようにしています。	○	会議メンバーは、町内会・民生委員・包括支援センター・老人クラブ・教育関係等と広範囲に及んでいます。しかし、外部の参加者が毎回少ないため、ホーム行事に合わせて会議を開催するなど、外部の参加者が多くなるような工夫を期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会やグループホーム協議会の会議などへ積極的に参加し、行政担当者との情報交換を行なっています。また、行政窓口へも訪問して相談するなど、市担当者との連携強化に努めています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は来訪時に伝えていますが、2ヵ月毎に送付の小遣い使用簿に利用者一人ひとりの様子を管理者が記入しています。ホーム便りにも利用者の暮らしぶりを写真に載せています。遠く離れた家族へは、電話や手紙で利用者の近況を知らせています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付と処理体制は整備されており、家族へも説明しています。家族からの苦情や要望等があった際には、苦情報告書や連絡ノートに記入し、職員全員に周知徹底するとともに、フロア会議や管理者による全体会議で検討しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等がある際には、職員が時間をかけて話し合い、ダメージが無いように努めています。同敷地内の系列のホームへ異動の場合は、常に相互交流を行っており、円満退職の職員もホームへ訪れて利用者とは話し合うなど不安を防ぐ努力がなされています。		

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の内部研修は、毎月計画的に実施しています。協議会主催等の外部研修へは、職制や勤務年数に応じて参加し、研修結果は内部研修等で報告しながら、全職員の共有となるように努めています。勤務年数の少ない職員の外部研修参加の機会が少ない状態です。	○	ホームは、今後できるだけ多くの職員が、外部研修に参加できるよう検討中ですので、今後の取り組みに期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、グループホーム協議会や各種研修会等で情報交換を行なっていますが、小樽市や地方のグループホームの見学も交代で実施し、利用者へのサービスに反映させるようにしています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用開始前に家族と利用者に見学に来て頂き、希望があれば食事を共にするなど、ホームの雰囲気に馴染める様に配慮しています。ホームに馴染みにくい利用者には、複数回の体験利用をして頂きながらサービスを開始しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は豊富な体験や知識を持っているため、職員は教えて頂く姿勢で利用者接触到し、共に支えあう関係を大事にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握が困難な場合は、以前の生活背景など家族からの情報を参考にしながら、確認するように努めています。それでも把握が難しい時には、表情やしぐさから推し量り本人本位に検討しています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が、家族や医療機関とも相談して利用者の状況を把握し、担当者会議で検討しながら暫定計画を作成しています。さらに、モニタリングやアセスメントを実施しながら本計画に移行し、フロア会議等を通じて全職員の共有となるようにしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は介護支援専門員が管理し、3ヵ月毎に定期見直しを実施しています。利用者の状態によっては、家族や医療機関とも相談しながら随時見直しを図っており、修正した介護計画は家族へ説明して了解を得ています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や美容院などへ家族が対応できない場合は、職員が車両で送迎しています。ホーム内にはゲストルームがあり、家族の宿泊や一緒に食事も可能です。また、各種のボランティア受け入れや法人主催のお祭り行事で楽しみごとを支援しています。		

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療等もありますが、家族や利用者の希望で、かかりつけ医の受診も自由です。通院は原則家族対応ですが、状況に応じて職員が送迎を行なっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の入居時に、重度化や終末期の対応について家族に説明しています。重度化等の状態になった際は、早い段階から家族や医療機関と相談しながら医療機関への移行などを実施しています。	○	利用者の重度化や終末期における対応策が明文化されていないので、現実となった場合の具体的方策あるいは指針を作成し、入居時に家族からの同意書をいただくことについての検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者への言葉かけやサービス実施の際に、人生の先輩として敬う姿勢を大事にしながら対応しています。介護記録など個人情報に関する書類等も適切に管理しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的決まりはありますが、利用者の体調や意向に配慮し、無理にスケジュールをこなすことなく、1日をゆったりと過ごせるように支援しています。		

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は予め決められていますが、利用者の希望や季節の行事に合わせて食材を工夫しながら調理しています。利用者と職員は共に調理や食事準備と後片付けを行ない、食事中は、利用者と職員と一緒に同じ食事をとりながら話し合うなど食事を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として週2回以上を目途とし、利用者の体調等に配慮しながら日中に実施しています。入浴を拒む利用者には、根気よく説得しますが、無理をせずシャワー浴や清拭で対応の場合もあります。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、食事関連の手伝い、畑作業、掃除、洗濯物整理などの役割を持ち、習字、茶道、手芸品づくりやボランティアによる指圧などの楽しみごとがあります。また、毎週日曜日には、ホーム内や中庭で喫茶店が開設され、利用者の大きな楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい時期には戸外に出て、中庭や遊歩道を散歩をしながら外気浴を楽しんでいます。また、地域の行事があるときには、職員と共に参加したり、車両を利用して花見などへも出かけています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム正面玄関は、日中施錠はありません。各階のユニット入り口は、階段の危険性があるため施錠していますが、利用者は階段を利用することが無く、エレベーターを自由に使用しています。		

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの災害対策は、年2回の避難訓練、夜間訓練、救命救急訓練などを実施しており、緊急時に利用者がスムーズに避難できる方法を訓練していますが、災害時に於ける地域との連携は継続しての取り組みとしています。	○	ホームは、災害対策としての訓練は十分に行なわれていますが、今後は運営推進会議で避難訓練への協力要請を重ねてお願いし、避難訓練時に地域住民の方々が見学など参加することを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分や食事の摂取量を一人ひとり記録しています。食事内容は協力医療機関の栄養士によって栄養バランスやカロリーをチェックしており、利用者一人ひとりに応じた支援を行なっています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの居間と食堂は、非常に広くゆったりとしており、季節の飾り物や利用者の手作り作品が貼られ、鉢植えの植物などもあって、親しみのある共有空間となっています。トイレも明るい場所に広いスペースを取って利用しやすい構造です。建物全体に清潔感もあり、利用者は居心地よく過ごしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には収納スペースが無い為、室内整理にはやや不便ですが、室内は明るく十分な広さがあるため不自由はありません。利用者は使い慣れた家具や衣類、仏壇等を自由に持ち込み、ゆったりと安心して毎日を暮らしています。		

※  は、重点項目。